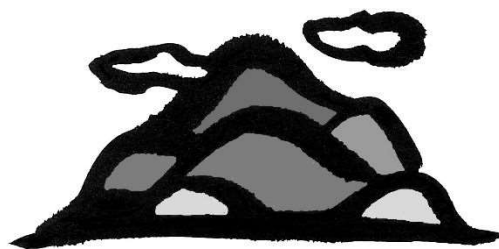


※このプランはたたき台なので、
修正が必要な個所があります。

鹿野地域未来プラン(たたき台)

～誇りを持って住み続けることができる鹿野町、
人が訪れてみたくなる鹿野町を目指して～



四季薫るまち鹿野

鹿野町総合支所

目次

1. プランの策定趣旨	P3
2. 地域の現況	P3
(1) 位置・地勢	
(2) 歴史・資源・人財	
3. 現状と課題、優先的に取り組む事項	P5
(1) 安心して暮らし続けることのできる地域の維持	P5
➡優先的に取り組む事項	
(2) 地場産業の活性化と雇用の確保	P9
➡優先的に取り組む事項	
(3) 魅力ある地域づくり・人づくりの推進	P10
➡優先的に取り組む事項	
(4) 交流による活性化と移住定住の推進	P12
➡優先的に取り組む事項	
4. めざす将来像	P13

1. プランの策定趣旨

平成16年11月1日、鳥取市に周辺8町村が編入合併し新たな鳥取市が生まれました。合併地域には「地域審議会」やその後の会議体である「地域振興会議」を設置し、「新市まちづくり計画」や「新市域振興ビジョン」を基に、本市の一体的な発展や、それぞれの地域特有の地域振興・まちづくりについて検討してきました。

新市域振興ビジョン推進期間が令和5年度末で終了したことに伴い、新市域振興ビジョンに掲げて取り組んでいる事業を鳥取市中山間地域対策強化方針に引き継ぐとともに、現在直面している鹿野地域特有の課題に対し、施策の方向性と具体的な取り組みを明らかにするために、本プランを作成します。

2. 地域の現況

(1) 位置・地勢

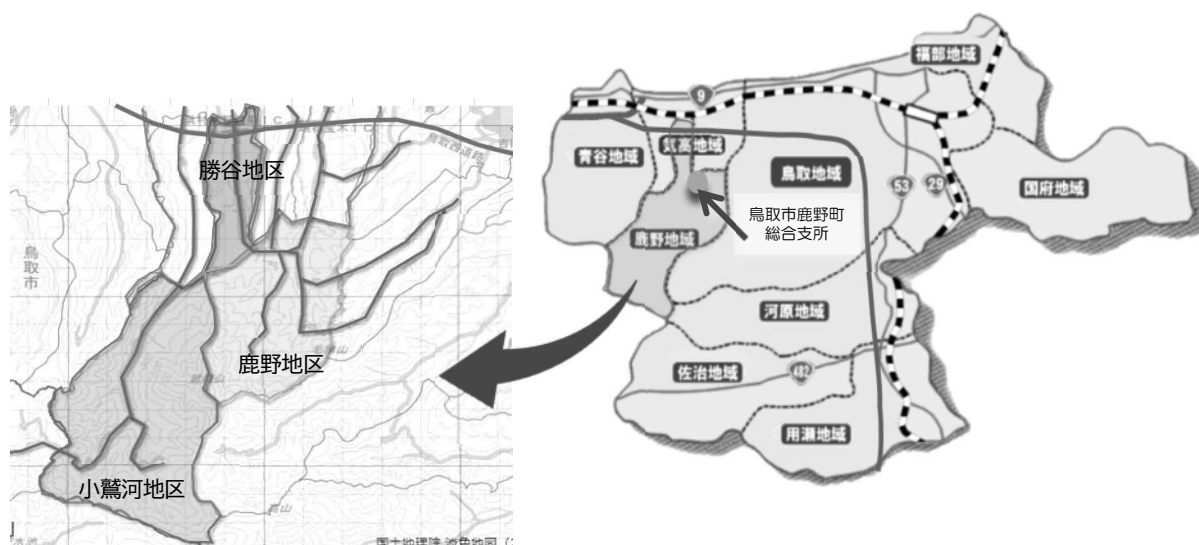
鳥取市の西部、因幡の霊峰・鷲峰山(標高921メートル)の麓に位置し、地域内を流れる河内川、水谷川、末用川沿いの河岸段丘や扇状地などに集落が形成されています。

面積は52.77km²で鳥取市全体の6.9%(人口は3.3千人で1.8%)にあたります。標高別にみると、標高200m以上の山地が60%を占め、100m以下の低地は20%に満たない、中山間地です。

土地利用は山林原野が80%(うち人工林60%)を占め、田畑などの耕地が10%、道路・宅地などが10%となっています。

町内各地区別の土地利用は次のとおりです。

- ・鹿野地区 面積34%、人口42% 旧城下町を中心に集落が形成されています。
- ・勝谷地区 面積11%、人口47% 耕地が30%を占めていますが、南部の温泉地では宅地開発が断続的に進行し、北部では山陰道開通により商業施設が進出しています。
- ・小鷲河地区 面積55%、人口11% 山林原野が95%を占めています。



(2) 歴史・資源・人財

● 歴史

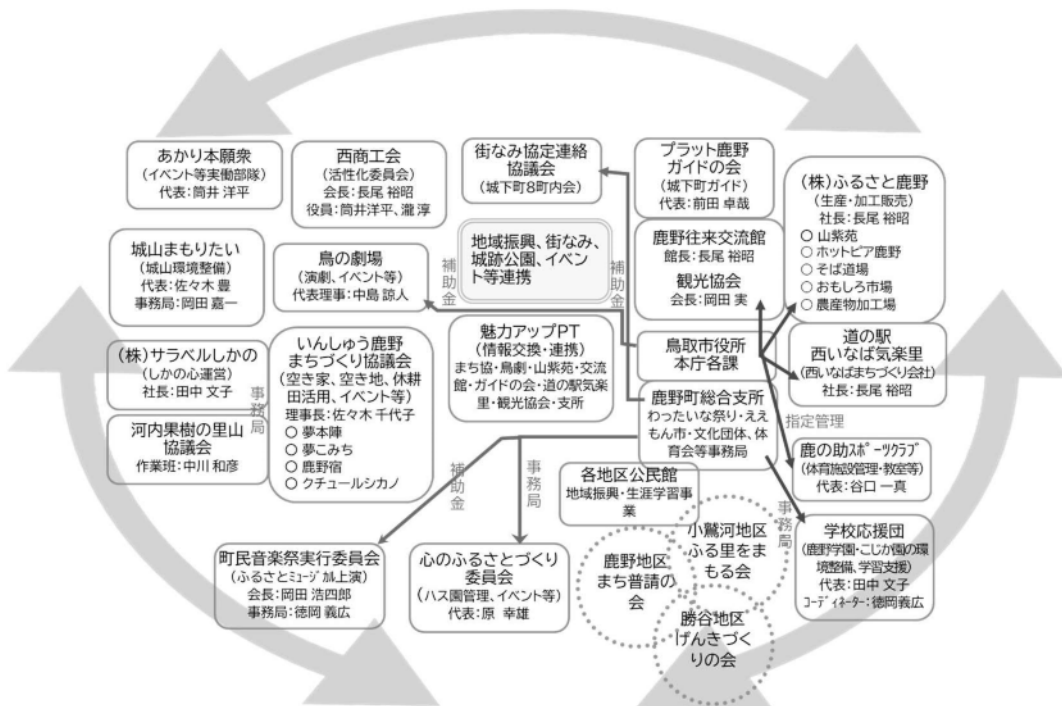
中世における鹿野町は、因幡地方の軍事・交通上の重要拠点として隣国但馬(山名氏)、出雲(尼子氏)、安芸方面(毛利氏)からの侵入、さらに豊臣秀吉軍の侵入など争奪攻防的となりましたが、天正9年(1581年)鹿野城主・亀井茲矩(かめいこれのり)の登場により平静を得て、その後は城下町、近隣の物産集積地として繁栄しました。元和3年(1617年)、茲矩の二男・亀井政矩(かめいまさのり)が津和野に移封(国替え)、また、寛永5年(1628年)の鹿野城焼失以降、次第に寂れていきましたが、その後も引き続き、近隣の物産集積地となっていました。

明治10年に西志加如と東志加如が合併し鹿野村が成立し、明治32年には町制が施行、昭和30年には、鹿野町、勝谷村、小鷲河村の1町2か村が合併して「鹿野町」が誕生しました。

● 資源

区分	主なもの
特産品	鹿野そば、そばアイス、鹿野地鶏、鹿野すげ笠、すげコースター、因州しし肉、そば菓子、イタリアンジェラート、生姜加工品、クラフトビール、藍染製品
観光	鹿野城跡公園、城下町街なみ、鹿野温泉、鷲峰山、鹿野往来交流館「童里夢」、道の駅 西いなば気楽里、鹿野ゆめ本陣、夢こみち、法師ヶ滝、西日本最大級のハス園、もうけ神社、鷲峯神社(こま犬)、譲伝寺(亀井茲矩公菩提寺)、雲龍寺(紅葉)、幸盛寺(山中鹿介の墓)、鹿野そば道場、温泉館ホッピア鹿野、鳥の劇場
イベント	桜まつり、鹿野祭り、鹿野ふるさとミュージカル、わったいな祭(ええもん市、週末だけのまちの店、文団協発表)、城下町しかのぶらり蓮ウォーク、虚無僧行脚、鳥の演劇祭、鹿野芸術祭、まちづくり合宿、鷲峰山麓ハーフマラソン

● 人財



3. 現状と課題、優先的に取り組む事項

(1) 安心して暮らし続けることのできる地域の維持

鳥取市の人口は、少子化や生産年齢人口の流出超過などから、平成17年をピークに減少傾向となっています。年齢階層別人口では、少子化・高齢化が一層進行しており、人口構成に占める働く世代の割合が減少してきています。

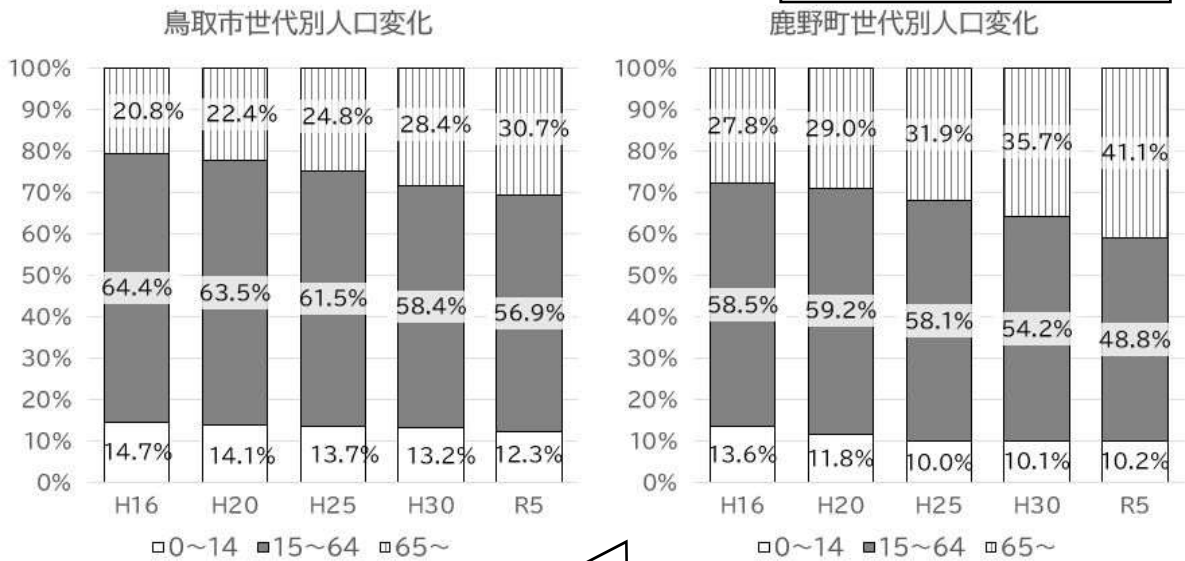
新市域においては、これらの推移が顕著に表れ、集落機能の低下、空き家や耕作放棄地の増加など、地域そのものの活力が失われつつあります。

鳥取市と鹿野町の合併後人口推移(※住民基本台帳による)

(単位:人)

年度	H16	H20	H25	H30	R5	増減率
鳥取市	200,532	197,216	193,894	188,286	181,203	△ 9.6%
鹿野町	4,385	4,322	4,049	3,641	3,364	△ 23.3%

人口は20年で約 1/4 減少

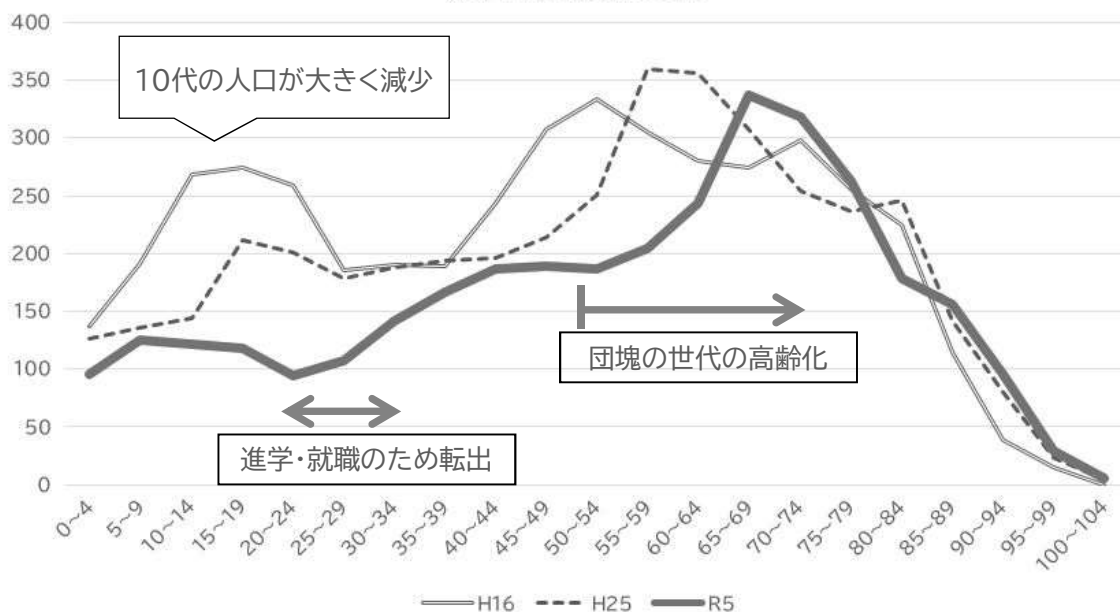


どちらも生産年齢人口が減少しています

また、「若年女性人口が減少し続ける限り、出生数は低下し続け、総人口の減少に歯止めがかからない」という考え方のもと、2024年4月に「人口戦略会議」が、2050年までの30年間で20~39歳の女性人口が50%以上減少する自治体を「消滅可能性自治体」として発表しました。

鹿野地域を推計すると、若年女性人口変化率がマイナス50パーセントにはならないまでも、減少し続けるものと思われます。

鹿野町年齢別人口の変化



鳥取県消滅可能性自治体データから引用

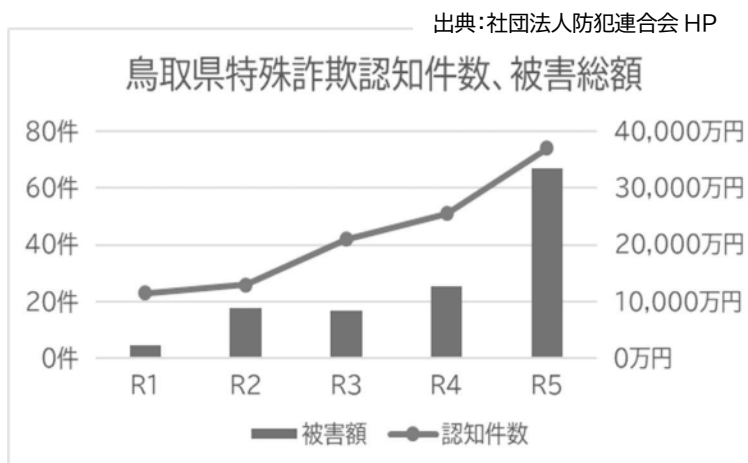
市町村	若年女性人口変化率	2020年総人口	2020年20-39歳女性	2050年総人口	2050年20-39歳女性	大分類	中分類
鳥取県 鳥取市	△ 33%	188,465人	18,277人	142,787人	12,215人	その他	自然減:中, 社会減:中
鳥取市 鹿野町	△ 43%	3,549人	278人	2,256人	158人	その他	

(「人口戦略会議」が2024年4月に発表した自治体の持続可能性に関する分析からの抜粋と鹿野町の推計)

- 2050年までの若年女性人口の減少率が20%未満にとどまっている自治体を「自立持続可能性自治体」
- 2050年までの若年女性人口の減少率が50%以上減少する自治体を「消滅可能性自治体」
- 出生率が低くほかの地域からの人口流入に依存している25の自治体を「ブラックホール型自治体」
- 上記の分類にあたらない自治体を「その他」とした。

人口の減少・少子高齢化により、独居世帯の増加、小規模高齢化集落の増加による自治会役員のなり手不足や活動の縮小など、地域コミュニティ力の低下が心配されます。

近年異常気象が毎年のように発生し、鹿野町においても令和5年8月の台風7号をはじめ豪雨災害等による被害が生じています。また、防犯面においてもオレオレ詐欺をはじめ、さまざまな巧妙な手口で金品をだまし取る特殊詐欺による被害が後を絶たない状況の中、コミュニティ組織の弱体化から地域の防災・防犯・交通安全および地域福祉に対する自助・共助も



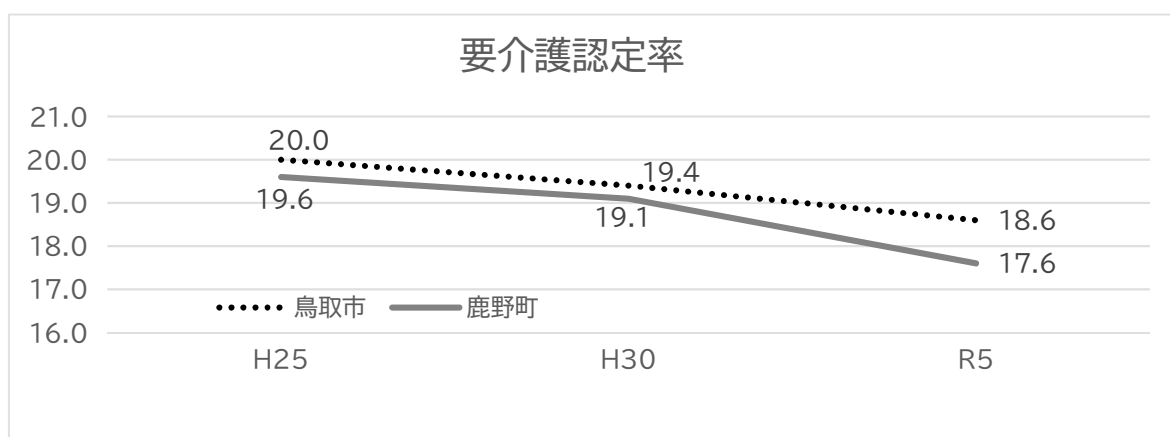
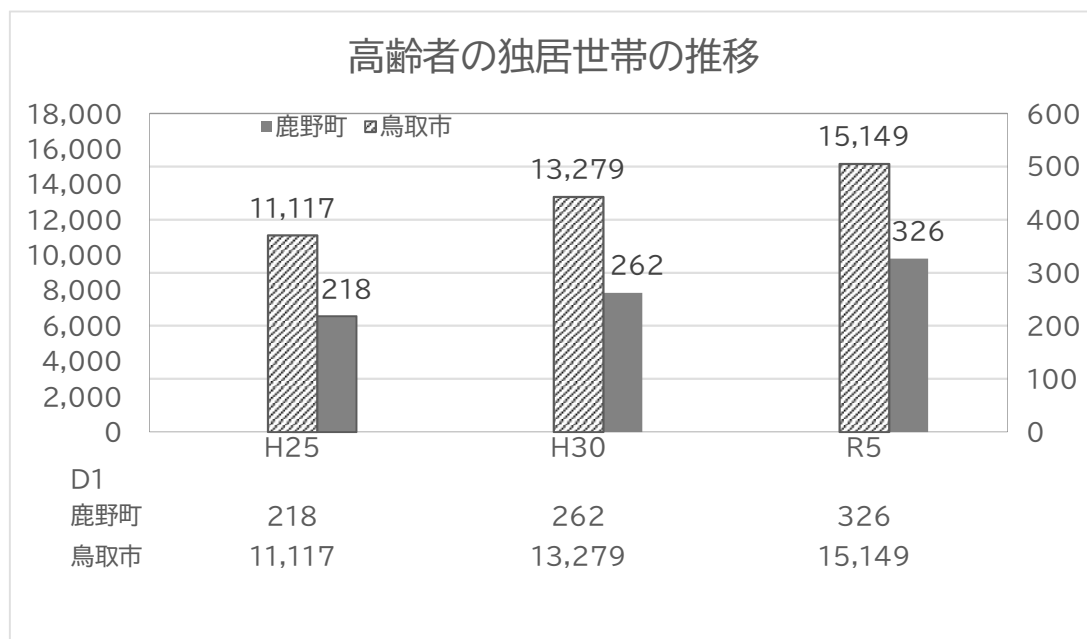
できにくくなる可能性があり、防災拠点や施設・備蓄の整備と運用体制が課題となっています。

さらに、少子高齢化による高齢化率の上昇とともに、高齢者の独居世帯も増加しています。家族による支援が困難な人も増え、コロナ禍による生活様式の変化も加わって、これまで築かれてきた地域の繋がりが薄れつつあります。そのような中でも住みなれた地域で自分らしく暮らしていけるように、健康で自立した生活を送ることができる健康寿命を延ばしていくことが重要です。そういった意識の高まりか、ここ10年の要介護認定率は減少傾向にあり、鳥取市全体と比較しても鹿野地域は低い傾向にあります。

高齢者の健康づくりに向けては、認知症予防の「にこにこ教室」や健康増進のための「しゃんしゃん体操教室」などさまざまな取り組みをおこなっていますが、どの事業も会場までの送迎がないため、自分で通うことが難しいといった声もあり、参加者数が伸び悩んでいるのが現状です。

包括支援センター、総合福祉センター、民生委員等といった関係機関等と引き続き連携を図りながら、健康維持、改善に向けた地域での取組が課題となっています。

※下図は、長寿社会課の「日常生活圏域別高齢者等情報」による参考数値(2表とも)

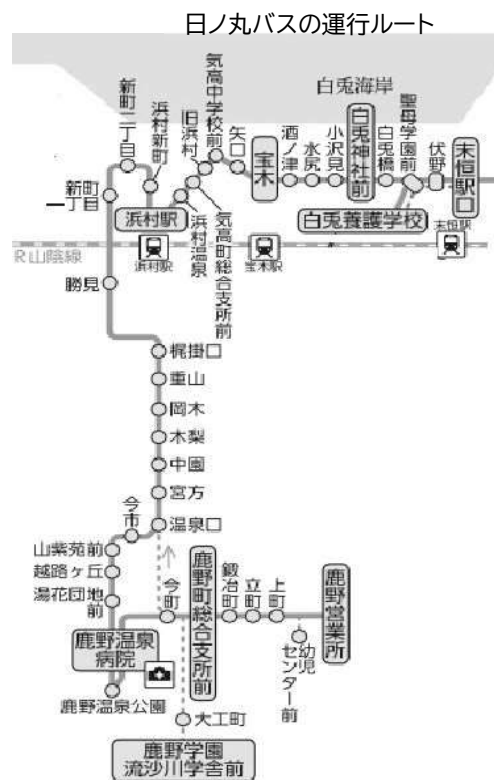


地域生活においては、自家用車の普及により公共交通の利用者が減少したことや、公共交通のドライバーの高齢化、労働条件の厳しさ、長時間労働、および免許制度の変更等により全国的に運転手が不足しています。鳥取市においても、民間バス路線の縮小やタクシー事業者の撤退が進み、交通弱者の日常生活が不安視されるようにもなりました。

現在、鹿野地域では路線バス(日ノ丸バス)白兎海岸線が、平日上り11便 下り12便運航していますが、乗車人数も少なく、近い将来撤退の可能性が高まっており、生活交通への影響が懸念されています。

また、これまでに路線バスが廃止になったエリアを市の乗合交通「気高循環バス」が逢坂線、瑞穂宝木線、宝木河内線、船磯線の4路線運行していますが、鳥取市生活交通会議では、「生活交通」の評価・見直し基準を(資料1)のように定めており、気高循環バスを路線ごとに見てみると、多くの路線が見直しの対象になっています。

鹿野地域でいつまでも暮らしていくためには、地域生活交通の確保は喫緊の課題となっています。



「生活交通」の評価・見直し基準 (資料1)

下記の基準を2つとも満たさない場合に検証や見直しが行われます。

基準	1便当たりの利用者数	利用者1人当たりの市の補助金額
数値設定	2.0人以上	1,000円未満
対象路線	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥取市気高循環バス(気高町、鹿野町) ・鳥取市絹見バス(青谷町、気高町) ・鳥取市南部支線バス(河原町、用瀬町、佐治町) ・西郷線(河原町) 	

令和4年度気高循環バスの状況					
	全体	瑞穂宝木線	船磯線	逢坂線	宝木河内線
1便当たり乗車数	2.13人	1.52人	2.00人	1.64人	3.12人
一人当たり補助金	2,042円	2,708円	904円	3,567円	1,391円
基準未満路線		基準未満		基準未満	

※ 瑞穂宝木線、逢坂線は2つの基準を満たしていない。また宝木河内線は通学に利用しているため乗車数は基準以上だが補助金額がオーバーしている。気高循環バス全体で見ても、乗車数はぎりぎり2人以上であるが、補助金額は基準額の倍使っている状況にある。

令和4年10月から令和5年9月末までの1年間、鹿野町・気高町で、運転免許を持たない人や高齢者がドアツードアで出かけることができる乗合タクシーの実証実験を行いました。事前アンケートでは利用希望が高かったものの、事前に電話で申し込む必要があること、利用可能な曜日や時間帯に制限があること、運行エリアが狭いこと、料金が高いと感じられたことなどにより、定着しませんでした。しかし、一部の利用者からは大変助かったという声もあるほか、現時点では車の運転ができる人や、家族・知人に送ってもらうことができる人からも、数年後への不安を感じているという意見が多くあり、将来に向けた検討を進める必要があります。

《優先的に取り組む事項》

(住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる環境づくり)

① 健康づくり・地域共生社会の推進

・介護予防の普及啓発 ・検診受診率の向上

② 交通の確保・情報伝達体制の強化

・「鳥取市気高町・鹿野町地域生活交通協議会」での「気高循環バス」の利用率向上検討。
・ドアツードアをニーズとする交通弱者の増加がみられることから、地域の実情に合った利便性の高い生活交通の確保について地域とともに検討し、買い物弱者や見守り福祉などの課題と合わせ、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる環境づくりを推進

③ 防災・防犯の取り組みの推進

・鹿野町総合支所の庁舎耐震・設備改修による防災拠点としての機能強化
・待機場所を備えた消防格納庫の整備と、併せて消防団員の加入を地域全体から受入、防災・災害時対応を強化

④ 買い物弱者対策・地域商業の創出

・移動販売による買い物支援 ・生活交通の確保(再)

⑤ 持続可能な地域形成の推進

・集落活動支援補助 ・地区要望等への対応

(2) 産業の活性化と雇用の確保

鹿野地域の地場産業は、労働者人口の減少により衰退が深刻化しています。基幹産業である農業では、農業者の高齢化や後継者不足、有害鳥獣被害などによる耕作放棄地の拡大が課題となっており、担い手の育成、耕作放棄地の再利用・有効活用、農産加工品のブランド化など、特色を活かした産業の活性化と雇用の創出が必要となっています。

鹿野そば、鹿野地鶏、生姜や、鹿野温泉の熱を活用した次世代型施設園芸作物など地域の特色や

資源を活かした農畜産物の生産拡大及び販路開拓に向けた取り組みをはじめ、クラフトビール醸造所や飲食店など各施設等と連携した6次産業化や農商工連携による高付加価値化に向けた取り組みを推進しています。また、日本型直接支払交付金制度や有害鳥獣対策事業の活用、捕獲したイノシシやシカ肉のジビエ利用促進など、農地等の保持・維持に向けた取り組みを支援し、地場産業の活性化と雇用の確保に繋げていきます。



《優先的に取り組む事項》

(特色を活かした産業の活性化・雇用の創出)

① 6次産業化・農商工連携の推進

- ・鹿野ええもん市などのイベント開催による商品の販売支援
- ・鹿野そばなどの地域特産品と飲食店等とのマッチング及び新メニュー開発等による知名度向上及び消費拡大につながる取組みへの支援

② 担い手の確保・育成と農林水産物、農林水産加工品等の販路拡大

- ・青谷高等学校の地域学習・地域連携の取組みを活かした、鳥取西いなばまちづくり会社の活動支援

③ 農地等の保全・維持

- ・本市農作業受託等法人である(株)ふるさと鹿野をはじめとする企業営農に対する支援及び新規参入など耕作放棄地の解消につながる取組みに対する支援
- ・日本型直接支払交付金制度活用の推進による農地・水路等の農業用施設の保全
- ・有害鳥獣の捕獲推進及び侵入防止柵設置等による被害対策による農地保全・維持

④ 地域の再生可能エネルギー源の有効活用

- ・温泉いちごなどの鹿野温泉熱を有効活用した農業等、新たな産業への支援

(3) 魅力ある地域づくり・人づくりの推進

学校・家庭・地域が一体となって、地域ぐるみで子どもを育てることを目的として立ち上げられた「しかの学校応援団」活動や、地域の教材や人材を活用した独自教科「表鷲科」など特色ある教育を推進し、子どもたちが地域を愛し育む教育を推進しています。また、NPO 団体による体育施設の指定管理とスポーツ教室、実行委員会によるハーフマラソン大会の開催など、地域スポーツが支えられており、継続した運営のための支援が求められています。

文化芸術では、「鹿野町民音楽祭」、「鳥の演劇祭」などをはじめ子どもから高齢者まで、幅広い世代間交流の中で活発な活動

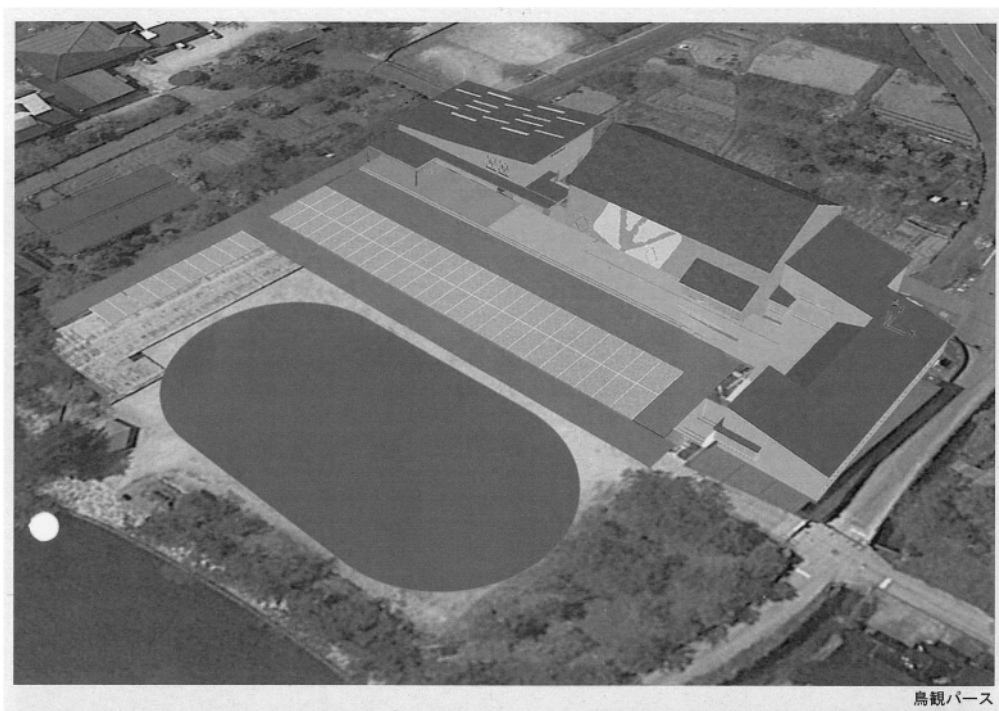


が行われており、若者によるアートを通じたまちづくり活動などにより、文化・芸術のまちとしての知名度が高まっています。



さらに、令和5年度から7年度にかけて旧鹿野小学校跡地を再整備し、「出会い」「集い」「学び」「つながる」舞台芸術を核とした地域活性化を目指して工事が進められており、並行して「舞台芸術を核とした人づくり」、「舞台芸術を核とした賑わいづくり」が進行しています。

しかし、伝統工芸や文化の伝承として、「鹿野すげ笠」、「亀井踊り」などに各団体が継続して取り組んでいますが、高齢化や後継者不足が課題となっています。



《優先的に取り組む事項》

(「個性」「魅力」を活かした地域づくり、人づくりの推進並びに集落の維持・活性化)

① 各地区のまちづくり協議会等を核とした魅力と活力の向上

- ・3地区連携によるまちづくり事業計画の促進
- ・NPO団体による体育施設の指定管理とスポーツ教室、実行委員会によるハーフマラソン大会などによる地域の魅力づくり支援
- ・住民団体等が主体となった遊休施設(空き店舗等)を活用した取組を支援

② 地域で活躍する人材の育成

- ・しかの学校応援団など地域ぐるみで鹿野学園の教育活動を支援し、表鷲科・小鳥の学校・ボランティアへの参加促進等による主体的・協働的な児童・生徒の育成

③ 伝統芸能・伝統行事等の維持・継承

- ・鹿野町民音楽祭や鳥の演劇祭などの継続開催を支援
- ・文化芸術活動の支援、亀井踊り・すげ笠などの伝統工芸や文化の継承、及び若いアーティストが活動できる環境整備
- ・平成14年に鹿野地域で開催した国民文化祭川柳大会を機に始まったジュニア川柳大賞の継承、学舎付近の歩道に建立する句木の管理・周知

(4) 交流による活性化と移住定住の推進

鹿野町では、鹿野城跡公園の修景整備を「町民憩いの場整備事業」として平成4年度から平成7年度にかけて整備し、平成6年度からは「鹿野祭りが似合う街並みづくり」を掲げて、城下町地区で街並み整備事業に着手しました。街並み整備事業による道路・水路などの公的空間の整備は平成16年度で終了しましたが、私的空間の修景整備補助事業は現在も継続して取り組んでいます。このような修景整備と併せて、「四季薫るまち」の理念のもと、住民自らが地域の魅力づくりに積極的に参加するとともに、鹿野町観光協会、西部地域の観光情報発信拠点施設「鹿野往来交流館童里夢」、国民宿舎山紫苑、いんしゅう鹿野まちづくり協議会、鳥の劇場など多くの地域事業者等が連携して地域イベントの開催や情報発信に努めており、関係人口や交流人口は徐々に増加しています。



しかし、人口減少に伴い空き家も目立ってきており、街並みの維持が困難になっています。空き家の利活用について、NPO 団体を中心に取り組んでいますが、持ち主が住んでいなくても人に貸すことに抵抗があることや改修費用の問題などから活用が進まないという状況もあります。

また、地域住民の関心が高く、シンボリック的存在でもある鹿野城跡公園で、桜の開花時期に併せて行われる鹿野桜まつりでは、多くの観光客が訪れ桜の名所として定着しています。また、400年以上の歴史を誇る鹿野祭りは、地域のコミュニティの象徴ともいえる鹿野地域の一大イベントとなっており、祭りの華やかさや、地域がひとつになる姿を見物に訪れる観光客が増えつつあります。

鹿野地域では、山陰道の開通、インターチェンジの開設によって、企業参入や移住者の増加など発展的要素が見込まれ、更なる関係人口・交流人口の増加が期待されています。一方で、花見時期のピーク時の駐車場不足や交通渋滞などオーバーツーリズムとして地域に影響する状況もあり、対策が必要となってきました。

住民自らが、城跡公園や街なみなどの歴史的景観及び桜・蓮などの自然景観など、地域の魅力づくりに積極的に参画し、交流人口の増加に取り組んでいます。引き続き、多くのまちづくり活動組織と情報共有を図り、連携して体験型観光メニューを企画しつつ、SNS などを通じて効果的に情報発信を行い、国内外の多くの人々が訪れる魅力あるまちを創出し滞在型観光を推進します。さらに、観光資源として価値の高い温泉や、「山陰海岸ジ



オパーク」を活かした広域型観光振興に、各種まちづくり活動組織を始め「鹿野往来交流館童里夢」、
「道の駅西いなば気楽里」等と連携して取り組み、地域の経済効果を高めていくことが重要です。

《優先的に取り組む事項》

(定住人口、交流人口の拡大)

① ふるさと・いなか回帰の促進

- ・鹿野地域への移住・定住を促進し地域の活力を維持するため、空き家の確保・有効活用を図る。地域おこし協力隊の任用を併用し、空き家や地域で発生する古材等を「地域活性化につながる資源」に変えるアップサイクルや、果樹の里山産物の加工・販売ルート構築等
- ・地域ぐるみで鹿野学園の教育活動を支援し、主体的・協働的な児童・生徒の育成を促すことで、高い志を持ちふるさと愛にあふれる子どもを育むとともに魅力ある地域づくりを推進

② むら・まち交流とグリーンツーリズム促進

- ・鹿野城主 亀井公が津和野へお国替えとなった縁で、昭和60年から継続している島根県津和野町との交流事業を継続し、西地域全体を巻き込んだ交流に発展させる。

③ 特色ある地域資源・伝統行事等による観光振興

- ・まちづくり活動組織との情報の共有を図り、効果的な情報発信や連携した取組によって、人が訪れる魅力あるまちを創出するとともに、国内観光客の誘客と併せ、日本文化体験の受入体制を整備し、海外観光客の誘客に取り組む。
- ▷鹿野桜まつり ▷わったいな祭 ▷ラーニングワーケーション ▷花見時期の交通誘導と駐車場の確保 ▷マナー啓発 ▷鹿野城跡公園と旧鹿野小学校グラウンドの一体管理(条例化)と施設更新・バリアフリー化 ▷積極的な情報発信

4. めざす将来像

誇りを持って住み続けることができる鹿野町、 人が訪れてみたくなる鹿野町の実現

○温泉と四季の花を通じて人々がふれあい、歴史・文化・人・土のかおりの中で、やすらぎやゆとりを感じることができる「四季“薫るまち”鹿野」を推進します。

○住民が積極的にまちづくり活動に参画する風土をベースとして、住民と行政の良好な信頼関係を大切に、ともに汗をかく協働のまちづくりを一層推進することで、さらなる地域の活性化につなげ、住民が誇りを持って住み続けることができる鹿野町、人が訪れてみたくなる鹿野町をめざします。

○住民及び行政がお互いのアイデアを共有し行動につなげることで、鹿野町の地域のブランド力の底上げを図り、元気な鹿野町の実現をめざします。